

【ホグロフス物語】 HAGLÖFS

グレートブランド物語

Great Brand Story

第11回：文と構成／河村喜代子



ホグロフスはスマートだ。ジャケットはその代表である。
いまのアウトドアの基調をリードするデザインになっている。
会社創立は1914年のことであり、その歴史の長さにくらべて
ルーツがほとんど知られてこなかったことは少し驚きだ。

09スウェーデンクローナの値段をつけたバックパックと
ヴィクター・ホグロフはダーラナから第二步を踏み出した。



ホグロフスはスウェーデンにあるダーラナのトールソングという場所で、ヴィクター・ホグロフという人物が1914年に始めた。ダーラナは大きな行政区で、背中はノルウェーとの国境に接している。トールソングへはストックホルムからだと北西へ約200km、スウェーデン南部のほぼ中央に位置する内陸部にある。ホグロフスに聞いたところでは、一番近い都市はボーランジ、空港は国内線だけが発着するダーラ空港があるという。またトールソングは雪にまつまられた冬のように長い春がつつき、駆け足で過ぎる夏のと、ひんやりとしたすがすがしい秋に彩られる土地だという。雪はたっぷり降る年もあれば、そうでもない年もある。ただ、北欧の人のにとつての「そうでもない」がどの程度であるのかはつかみきれなかった。ヴィクター・ホグロフはドールスチュガンと呼ばれる家に暮らして、そこで最初のバックパックをつくった。この小屋は現在は無人で、ホグロフスが買い取ってルーツと



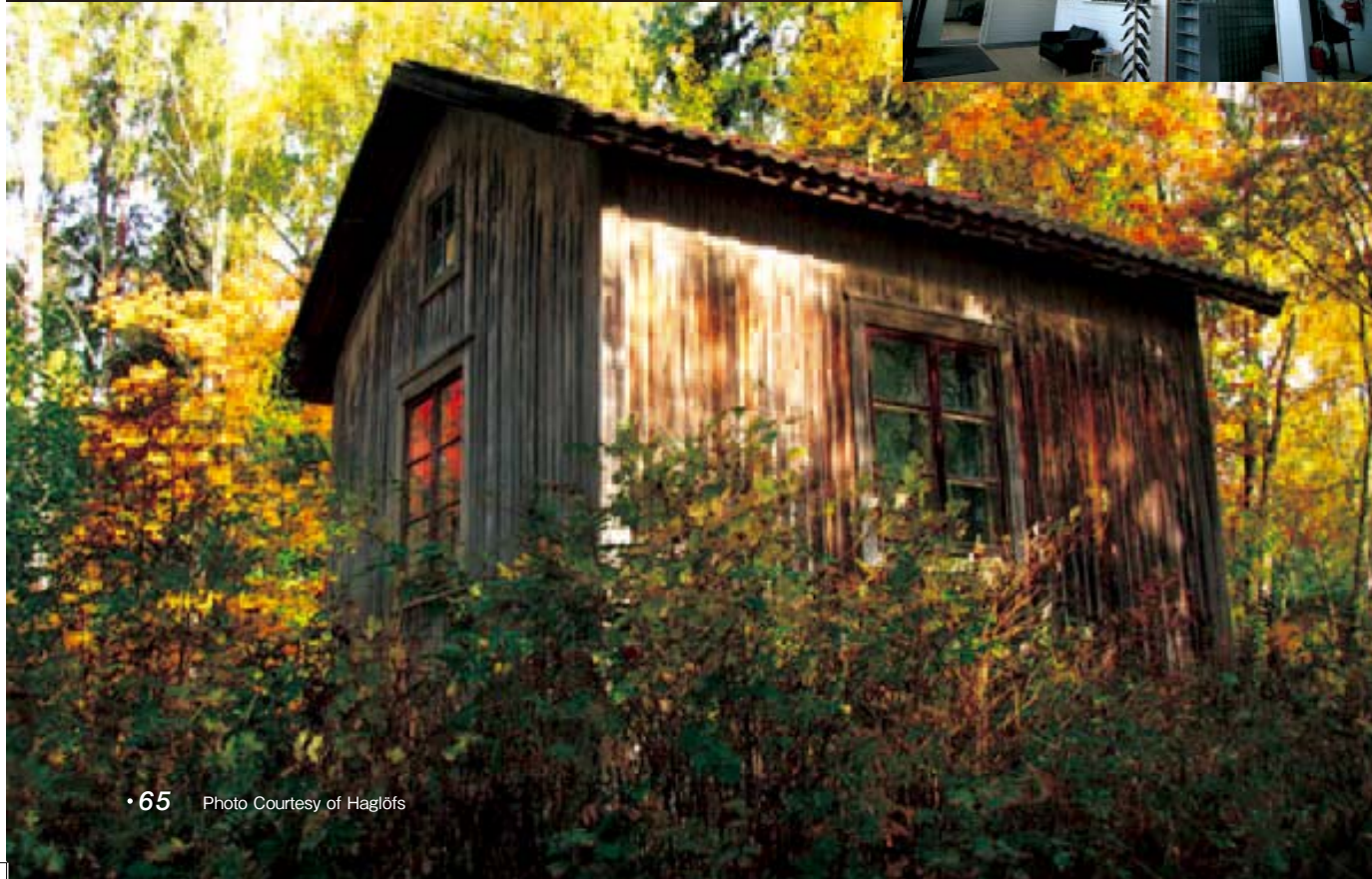
ホグロフスCEOのマット・ヘッドブロム。現在、ホグロフスはスカンディナヴィアはもとよりヨーロッパを代表するアウトドアメーカーになった。



北欧のブランドが突き抜けた先進性と合理性を備えることになる理由と、スウェーデンを代表するアウトドアメーカーとしての誇りがホグロフスの本社にある。

して守っている。最初のアイテムがバックパックになったのは、炭焼きなど山に入るときにいろいろな道具や食料に替えるなどをつめていくものが必要だったからだ。山で働くとは、必要なモノすべてを自分の力で運ぶということだ。仕事自体が厳しい上に、多くの荷物を運ぶようになったとき、ふさわしい道具があれば苦労は減る。山で働く男たちも、彼が使うバックパックに関心を示した。そこで運ぶためすことにした。同じものをつくってそれを自転車にくくりつけ、地元で働く男や農家を回ることにした。

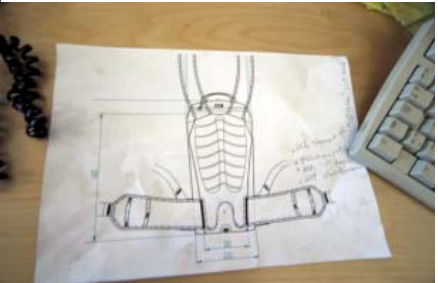
ドールスチュガンの小屋で生まれたホグロフスは地元スウェーデンを離れてヨーロッパ全域に知られ、日本にやってきた。その間、約100年の時間がある。





一流のアウトドアマンがホグロフス・フレンスとあって彼らの声を製品に反映するシステムがある。

ホグロフスの力はモノづくりの現場と販売部門が密接な関係にあることで、互いの声を聞く耳を持つ。



妥協知らずのユーザーであるホグロフス・フレンスの存在がミリ単位でデザイン細部を磨かせてきた。



ゴアテックスに代表される機能性繊維からカラーまで合理的な素材選択がホグロフスの理念を担う。



行動するのが好きなのか、働くことが好きなのかと、よく身体を動かす。国が違ってもアウトドア関連で働く人たちはどこか似通った雰囲気を持っている。

北欧圏で最大のアウトドア用装備のサプライヤーとなったホグロフスのバックヤード。



バックはホグロフスの3本柱のひとつ。タイプアドロップ型のタイトはスタイルはクラシックだが機能は先進。下はホグロフスの技術力を示すリム35の背面構造。



Photo Courtesy of Haglöfs



Photo/Takenori Aoki (WPP)

LIM OZONE JACKET
LIMオゾンジャケット
3レイヤーゴアテックスプロシェルを使用するアウターシェル。3通りの対応力を持つフード。止水ジッパーを使うポケットは換気にも役立つ。防水と軽量の機能を求め縫い目を最小に抑えるカッティングがスタイリッシュなフォルムという最良の結果を得た。価格6万5100円

のジャケットを視野に入
れることへ舵を切ったの
が1980年代以降で、
その10年後にはスカンデ
イナヴィアだけでなく、
ヨーロッパ全域でアウト
ドアブランドとして知ら
れる存在になっている。
ホグロフスのモノづくり
への取り組みが支持され
たということだ。ウエ
アの「レイヤー・オン・

レイヤー」の構成に、彼
らの合理的精神が端的に
示されている。肌に近い
ベースレイヤーは吸湿性
と速乾性を兼ねる。つね
に肌をドライな状態に保
つためだ。その上にミッ
ドレイヤーを重ねる。こ
の役目は保温にある。寒
気の侵入を防ぐと同時に、
温かい空気を身体のため
りにキープするためだ。

最後に雨、風、雪など外
界と直接向き合うアウ
ターシェルを重ねる。簡単
に言えば重ね着だが、ア
ウトドアで身体を動かし
た経験があれば、そのこ
との重要性がわかる。た
とえ寒いなかでも、動き
出した身体はすぐに熱く
なる。発汗する。これが
クセものだ。汗は急速に
冷える。肌に触れるシヤ

WEAR

ホグロフスは自らを
「テクニカルブランド」と呼ぶ。
実際のモノの上に移して考えると
これは容易に理解できる。
つまり機能するモノということだ。
ツが濡れると、不快なほ
かりでなく体力を奪うの
だ。ホグロフスは働きの
異なるレイヤーを3段階

ZEAL JACKET
シールジャケット
生地パフォーマンス
1001、色バジューグリーン
& ホワイト、約210gの超
軽量フルジップタイプ
価格1万3850円



WEASEL HOOD
ウィーゼルフード
生地ウィンドストップ
ーソフトシェル、色ハ
ニー&シトロ
価格5万1450円



HUSKY II JACKET
ハスキーIIジャケット
生地ポーラテックサー
マルプロハイロフト、
ポーラテックパワース
トレッチ、色オイス
ー&クレイ
価格2万9400円
今秋販売予定



COULOIR JACKET
クロアールジャケット
生地ゴアテックス・ブ
ロシェル3レイヤー、色
ブロンズグリーン&ゴ
ールデングリーン
価格7万7700円
今秋販売予定





LIM35 リム35

カテゴリーはバックパッキング。アルミニウムフレームと身体への負担が少ないショルダークラッシュを採用。ロール式開口は荷物の出し入れ時に威力を発揮する。容量35ℓ、重量1000g、色グラファイト。価格2万3100円



COMBI コンビ

カテゴリーはスペシャル。椅子付きバックパックはハンティングと冬のフィッシング用として開発された。使い勝手のよさで狙い通りの人気を呼んでいる。容量42ℓ、重量1150g、色ブロンズグリーン。価格2万1000円



CRACKER クラッカー

カテゴリーはデイバック。セミハードボディは中身がフルの状態でも型くずれしにくい。日常使用に適した便利な収納部が各所にある。容量12ℓ、重量550g、色ブルージェイ&ライトブルージェイ。価格8400円



ACE M エース

カテゴリーはインテンス。激しい身体の動きに対応できる左右独立可動式ショルダーストラップを採用する。サイドにメッシュポケットを装備。容量20ℓ、重量620g、色ホワイト&チャコール。価格1万4700円



VOLT (M)、(S) ヴォルト (M)、(S)

カテゴリーはデイバック。前面に大型ポケットと背面には通気性を高めるパネルを装備する。容量18ℓ (M)、14ℓ (S)、重量700g (M)、660g (S)、色タークブルージェイ (M)、ライトモール (S)。価格1万1550円 (M)、1万5000円 (S)

Photo/Takenori Aoki (WPP)

機能するブランドであるためにモノの働きを正確に伝えることが必須。ここに並ぶバックパックにもホグロフスのメッセージは込められている。



背中に接する部分には通気性を高めるためにデザインされた溝構造が威力を発揮する。腰の部分はグリッパターを描いてホールド力を確実にすると同時に荷重分散に効果を示す。幅広い対応力を発揮できる使い勝手に優れたバックとなっている。



ROC35 ロック35

カテゴリーはマウンテンバックパック。シンプルな外観に優れた耐久性を備える。フロント部の伸縮性コードとストラップで用具の装着に対応。容量35ℓ、重量1500g、色ディープレッド。価格2万4150円



MATRIX40 マトリックス40

カテゴリーはバックパッキング。サスペンションシステムにアルミニウムを使用し軽量化を実現。随所にバックパッキング用具の収納に対応するポケットを装備する。容量40ℓ、重量1550g、色チャコール。価格2万9400円



ASCENT38 アセント38

カテゴリーはマウンテンバックパック。アルパインクライミングに最適で同時にオールシーズン対応可能。ショルダーストラップの自由度に優れる。容量38ℓ、重量1700g、色スピードブルー&マンダリン。価格3万4500円



SUMO95 スモ95

カテゴリーはバックパッキング。ショルダールングスを調整できる。バック下部にアルミポールを使用してバックの安定感を実現し身体にかかる負荷を軽減する。容量95ℓ、重量3400g、色ブラック&チャコール。価格5万6700円



RAND38 ランド38

カテゴリーはマウンテンバックパック。バックカントリースキー/スノーボードに最適な超軽量アルミニウムフレームを採用。優れた安定性と高い自由度を確保。容量38ℓ、重量1700g、色ブラック&サンセット。価格2万8350円



本格登山用マウンテンバックパックからバックパッキング、デイバック、激しい運動を伴う行動向けインテンスなどのカテゴリー分けがあるのでバック選びの参考にしたい。
H PLUS
0120-724-764
<http://www.hplusweb.jp/>